

令和2年度 第2回浜田市保健医療福祉協議会 会議録

日 時	令和3年1月21日（木）18：30～19：40
場 所	浜田市役所4階 講堂A・B・C
出席委員	齋藤 寛治、大谷 克雄、川中 淳子、大山 恒夫、川神 裕司、飯田 博、勝手 俊美、山口 記由、室崎 富恵、船附 克己、滝本 浩之、岩田 博子、村武 謙司、三浦 寿紀、岡田 綾子、村下 伯（代理出席：飛）、山崎 孝雄（代理出席：松本） 合計17名（代理出席2名）
欠席委員	吉村 安郎、宮阪 敏章、肥塚 由美子 合計3名
事務局	健康福祉部長 猪木迫 幸子、地域福祉課長 藤井 陽子、健康医療対策課長 久保智、健康医療対策課副参事 湯浅 百合恵、子育て支援課長 龍河 章江、高齢者福祉係長 坂本 正見、地域包括ケア推進係長 倉井 宏朗、健康づくり係長 紀 みどり、障がい福祉係長 木下 勝範、地域福祉係長 重田 昌春 合計10名
会議内容	<p>1 開会（地域福祉課長） 会成立報告 出席委員15名、代理出席2名、合計17名</p> <p>2 健康福祉部長あいさつ</p> <p>3 議事 (1) 報告事項 ①地域福祉計画の進捗状況について ⇒事務局より、資料No.1について状況などを補足説明。なお、各種福祉計画を第1回保健医療福祉協議会において報告していることを連絡。</p> <p>【委員からの質問・意見】</p> <p>(委員) 「小・中・高校生に対する福祉教育の推進」について、浜田には全国でがんサロンというものが初めてつくられた。その方々が自前で出前講座に出向いておられるようである。文部科学省からは義務化になっているということをお聞きした。市はどのような認識か。</p> <p>(事務局) がんサロンは健康増進計画に基づいて、がん対策の推進として予防のための教育を実施している。健康医療対策課では、日頃からがんサロンの方と一緒に活動している。現在、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、医療センターが会場として使えないため、浜田公民館等で開催している。また、健康医療対策課が仲介をし、講師としてがんサロンのメンバーの方が実際に中学校や高校に出かけたりしている。当該資料では、計画の抜粋しか掲載していない点をご承知いただきたい。</p> <p>(委員) 「生活困窮者に対する自立支援の充実」について、相談支援の中で法テラスとの連携も行われているが、支援プランを作成しているものの終結に至らないケースは、どのようなことが弊害となって終結に至らないか。</p> <p>(事務局) 資料の数字の補足であるが、当該年度に新規でプラン作成を行ったもの</p>

をプラン作成として計数化し、終結は過年度にプラン作成したものも含め当該年度に終結した件数である。

ご指摘のとおり、プラン作成よりも終結件数のほうが少ないという状況である。みなさんが短期間（年度内）での終結が望ましいが、支援が長期化するケースは多い。支援の内容にもよると思うが、例えば多重債務の場合、終結までは時間を要する。就労であれば就職時に終結となるが、採用に至るまでが長期化すれば、プラン作成から終結までに時間を要したこととなる。それらの結果、プラン作成と終結件数にズレが生じる。また、終結に至ったケースでも、再度支援を要する場合も生じる。

現在、社会福祉協議会に委託しているが、根気よく対応していただいている。

(委員) プランを作成しても単年度で終結するケースはほとんどないため、プラン作成と終結の件数差は継続中と理解している。

(委員) 「サービスの第三者評価制度の導入」について、具体的に第三者評価を入れるとどのような効果が期待されるのかを伺う。

(事務局) 第三者評価事業は、自社の福祉サービスについて客観的な評価を受けるものであり、結果は公表される。したがって、事業者が具体的な事業運営の課題等を把握してサービスの質の向上に寄与されることが期待される。

②浜田市地域包括支援センター運営業務の外部委託について

⇒事務局より、**資料No.2**について説明。

【委員からの質問・意見】

・なし

③浜田市自死対策連絡会の開催について

⇒事務局より、**資料No.3**について説明。

【委員からの質問・意見】

・なし

(2) 協議事項

①障がい福祉計画・障がい児福祉計画について

⇒事務局より、**資料No.4 及び計画案**について説明。

【委員からの質問・意見】

・なし

②高齢者福祉計画について

⇒事務局より、**資料No.5 及び計画案**について説明。

【委員からの質問・意見】

(委員) 高齢者福祉計画の中にある「自治区別の要支援・要介護認定者数の推移（平成29年度～令和元年度）」について、事務局から全体では認定率が減少傾向にあると説明があった。改善してきている要因は何か。

また、弥栄は高い認定率であると記載数値では考えるが、何か要因があるのか。それとも実態が異なるのか。

弥栄の認定率が高い理由と改善内容について知りたい。

(事務局) 記載の表には全体計数がないため分かりづらいが、平成 29 年度は 23.2%、平成 30 年度は 23.2%、令和元年度は 22.9%となっている。この数字は、浜田及び江津とも他の地域に比べ高い水準にあるものの低下傾向にあると思っている。

改善してきている要因について、介護の予防ということを軸に事業を実施している。ある程度の年齢を重ねると、どうしても生活にいくらかの支障が生じるが、そのような部分を予防支援することで、介護を必要とする方を少なくするという取り組みを図っている。介護手間が高いところをどのように注目し、どのように元気な方を増やしていくかに着目しながら取り組みを行っており、それが結果として浜田市全体で改善している傾向に繋がっているものと考えている。他の地域と比較して、何が不足しているかということは見えにくいですが、介護予防に取り組むことで少しずつ効果が上がってきているということが数値に表れていると思っている。

また、弥栄の認定率であるが、特殊な要因があると考えている。まず、人口規模の観点であり、変動は大きくなりやすい地域である。また、特別養護老人ホームなども人口規模では充実しており、実人口以上に施設に入所されている方がおられるという影響も顕著に表れる。つまり、実際の住民数対比よりも高い水準が表れる要素がある。それらより、自治区別では人口規模の大小により変動要素が異なるという前提条件の点をご承知いただきたい。

※協議事項①及び②について、拍手で了承され承認をいただく。

③浜田市再犯防止推進計画策定専門部会の設置について

⇒事務局より、**資料No.6**について説明。

【委員からの質問・意見】

・なし

※この件について、拍手で了承され承認をいただく。

※会長による議事進行終了。

7 その他
なし

8 閉会